

每回二十五日發行



廣告

林業教育品展覽會
會開催趣意書

近年林業に關する研究は著しく勃興し其施設經營亦大に見るべきものありと雖も一般世人の之に對する知識の頗る幼稚なるを免れざるは我國林業の爲大に遺憾とする所なり仍て本會は廣く斯業に關する參考品を蒐集し今秋十月下旬本校の新築落成式に際し校内に陳列し衆人の縦覽に供し又永く之を保管して益々斯道に裨補する所あらんとす翼くは本會の微意を諒とし左記御一覽の上奮て賛同せられ本會の目的を達せしめられんことを

大正二年八月

長野縣立木曾山林學校校友會

左記

陳列品類別

- 第一類 造林及森林保護に關するもの
 - 第二類 森林利用及林產物製造に關するもの
 - 第三類 森林測量及製圖に關するもの
 - 第四類 測量及森林經理に關するもの
 - 第五類 雜部
- 注意事項
- 一、出品者は出品名數量容積等を詳記したる左記目錄を大正二年九月廿日迄に本會宛御送附相成度し現品は同年十月五日迄に到着する様發送せられたし
 - 二、出品後の始末方(寄贈)に就ては其旨必ず目錄に摘記相成度し
 - 三、出品物の荷造料並に運賃は可成出品者に於て負擔せられたし
 - 但し多額の費用を要するものありて

大正二年八月廿三日印刷
大正二年八月廿五日發行

〔定價三錢〕

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
上水内郡岸田村字中御所八十番地
印刷者 田中彌助
長野市西后町乙廿一番地
印刷所 長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友

第四十六號目次

廣告 林業教育品展覽會開催趣意書
研究 能登の檜林
通信 學校便り、會員通信、球磨便り
雜報 雜誌費、寄贈金、寄附金、領取報告
附錄 修學旅行日誌

は本會に於て之れを負擔若しくは補助することあるべし

- 四、出品物に就ては本會は其到着の日より返濟の日までの不可抗力に因らざる破損紛失は賠償の責に任す
- 五、寄贈せられたる物品は更に本會より木曾山林學校に寄贈し標本室へ陳列し永く斯業の參考とす
- 六、返附をなす物品の荷造並に運賃は本會に於て之を負擔す

出品目錄樣式

出品目錄		出品者住所氏名	
品名	數量	容積	寄贈又は備考
		長巾	厚返附

研究

能登の檜林 (續)

寺尾 敬二

第五、現在及將來の作業法

一、混清林及單純林

高等なる林地に於てはスキとの混清林を作ること尙ほ吉野林地方に於けるスギヒノキの如くならば經濟上得策なるが如しと雖もクサアテの成長はスギに比して僅少の差なるを以て株更スギを目的とするも特別の事情あるにあらざれば好んでスギを混するの必要なるべし只マアテの生長はスギ及ワサアテに比して稍遅きを以て此の種に對しては特にスギ或はワサアテと混清を爲す方得策なるべしスギ林に對しては虫害雪害等に抵抗力を強むる爲めアテを混するは有益なることなり

二、擇伐作業及皆伐作業

擇伐作業は多くの場合歓迎せられずと雖も小面積の私有林多き本縣の如きは喬木の皆伐作業は反て多くの場合行はれ難き事情あるべし今アテに對する擇伐作業の利益を左に列記す

イ、小面積の林地に於ては一齊林の隔年皆伐作業を取るときは其隔年の年期の甚速くして小資本家は實行に困難なり然れども異齡林を作りて年々又一定期毎に擇伐

を行ふ時は一時の收額僅少なるも其收額よく連續するを以て經濟上便利多し
ロ、陰樹の喬木に於ては老林分の下に數版の幼齡林を存在せしめ得るを以て蓄積大なり

ハ、異齡混清林を作りて下部に幼林分を有する時は林地の保護確實なり

ニ、一齊林は雪風等に對して抵抗力弱きも異齡林は強し

ホ、皆伐林に於ては更新毎に多くの造林費を要するもアテの挿條法を以て異齡林を作る時は極めて管單に老林下に隨時之を行ひ得るを以て經費少し

ヘ、輪島に於けるマアテの需用は長きものよりも太きものを歓迎す一齊林に於ては長き美林を生ずるも異齡擇伐林は太くして割に短かきものを生ずる故に輪島の需用に對しては寧ろ適當なり

然れども異齡林の擇伐作業を取るときは次の不便を忍ばざるべからず

イ、伐期收穫の際伐採上困難なり即ち四周に存する幼齡林木を損傷するの虞あり

ロ、老林木を伐採する事過度に失する時は初林分の健康に危害を與ふ

ハ、老林分の立木度多きに過くる時は初林分の成長量甚小に且不健康なる樹木を生ず

ニ、大面積に於ては運材上に不便あり

ホ、皆伐林に比して取扱方困難なり
以上を比較し見るに異齡林の擇伐作業を取

るアテ林は能州の如き小面積の林地散布する處に於ては不適當なる作業法とは云ふべからず特にアテに對しては頗る其適當せるを見る然れども小丸太の需用割に多く且つ角物として見込あるワサアテは寧ろ吉野流の取扱方を模範とすべきか左はあれ將來に於けるマアテの作業法は強ち從前の如き粗末なる方法を固執するを満足するにあらざる其形に於て大体之を是認し尙ほ一層是を合理に導くにあり舊時の能州人は只事情の己むを得ざるより不合理にも異齡混清林に似たる一種の粗末なる林相を作りたりしも將來に於て經營すべき新林は充分自覺の上集約的なる異齡混清林となすを利益とす

第六 將來の見込

アテは果して將來見込あるべきか此の地方の杉の價格はアテに比して常に七割に過ぎず故に收額上より云ふ時はアテはスギに比し七割の生長をなせば可なる事となるなり然るに實際ワサアテの如きはスギを去る事僅かに一步に過ぎず加之保護の點に就而アテの安全なること他に殆んど比類を見ず故にアテの價格をして將來尙ほ現時の割合を維持し得るとすればスギの植栽は無意義のこととなるなり建具料としてワサアテの強額は津輕産ワサアキなり能州各港に於けるワサアキの間屋相場百石三百余圓一尺約四圓津輕より能州に至る和船運送賃約其の價格の一割五分に當る然して能州現時のワサアテ價格はワサアキを標準にする傾きあり

りて割に高價なるも山元價格頗る低價なるを以て道路の發達に連れ市場のアテ林は充分津輕産に拮抗するの余地を存す只彼が今日の短材(今日は一丈もの多し)を改めて長材を輸入するに至りては或は能州アテの角物は多少の變動を見る事あらむ舊時はクサマキの輸入頗る多額なりしも近時北海道通ひの船舶は利分少き木材を積込むことを喜ばざると飛彈の材が越中に搬出せらるゝと並に藩政當時の七木禁制解除せられ重用木の伐採任意(寧ろ亂伐)になれる等の事情により今日に於ては一般輸入材の減少したること著るしきを見るマアテの方面に於ても輪嶋の工業の發達の連れ需用の増加すべきこと明かに(今日に於ては漆器用となるべきマアテの老木欠乏の有様なり)してワサアキの價格は輪嶋市場に於けるマアテの價格に比し敢て高價なるを認めずと雖も漆器上の得失により果して今日の如くワサアキの入市を許さざる以上はマアテは安んじて同市場を獨占し得べく飛彈のヒノキは無論價格の上より見ても當市場に來るの資格無きなり然れ共單に輪嶋の漆器並に建具料のみを目的としてアテの將來を推定するは頗る不充分にして若し將來も果して兩用途の外別に大なる新販路を發見せざれば植林の範圍もまた甚小區域に限らざるべからざるもアテの性質により將來の利用方法を考案し土木用材建築材曲材物桶類家具類等の方面に歩を進め價格の低廉なるも生長の

大なることよりヒノキの範圍を記し一方は材質の優等なるよりしてスギと拮抗し比重の小なるを利用して加賀の山岳地方にも其區域を擴張せば内地に於て充分有望なるのみならず七尾の港より大陸に輸出せらるる木材も將來或は其の數量の増加するを見んか。(終)

通信

學校記事

○安井書記退職 書記安井正夫氏は多年本校に奉職し老いて益壯なるものありしが今回都合により退職することとなり七月十八日付を以て左の辭令に接せり

木曾山林學校書記 安井正夫 依願退職ヲ命ス、給六級俸、職務勉勵ニ付金拾圓賞與

○校長出張 七月廿五日は辱くも明治天皇陛下が本邦に對して恩賜金御下附の記念日なるを以て福嶋小學校に於ては記念式を舉行し安藤校長も參列せるが式後小學校生徒及び町民有志と共に福嶋町恩賜記念林なる上明ヶ澤に赴き實地視察を遂げ校長は臨地講話を爲せり

○明治天皇御一週年祭遙拜式 七月卅日は辱くも明治天皇御一週年に相當し宮中は申すに及ばず桃山御陵に於ては莊嚴なる御祭式を營ませ給ひ國民擧げて去年の今日を思ひ千古盡させぬ恨を繰り返すなる此日我校

にては午前八時より校庭に於て遙拜式を舉行せり、當日は福嶋町及新開村在郷軍人七十餘名も參列し一層莊嚴を添へたり式場は校庭にして西方に壇を構へ神を立て、注連を張り之を假殿とし生徒軍人は西面して整列す、校長先づ擧式の旨を告げ夫より左の順序によりて奉拜せり

校長奉拜(玉串を捧ぐ以下同ト) 生徒總代奉拜 福嶋軍人分會長奉拜 新開村軍人分會長奉拜

右終つて直ちに職員、軍人、生徒の順序を以て假奉安殿に伺候御聖影に對して最敬禮を行ひ思慕敬愛の誠意を致せり

○記念講演 明治天皇御一週年祭當日學校にては明治天皇を追想し奉るべき記念講話もがなど物色中恰も好し志賀重昂先生來松せらるゝあり序を以て來校の旨快諾を得既に先日入峽せられたるを以て當日遙拜式後午前九時半を講堂に於て講演會を開けり講話は先生が太平洋航行中、大喪の電報に接せし所感より説き起し旅順開城談構太境界査定談等及び明治天皇陛下の海の如くなる御仁慈を頌し餘談として木曾發展策に就て先生の持論を發せられしが滔々二時間餘に渡り會衆醉へるが如くなり當日は生徒軍人の外諸官衙よりの來聴者非常に多く無前の盛況を呈したり(因に該講演要領は何れ林友誌上に掲載すべし)

職員出張 安藤校長及北村教諭は八月一

日松本女子師範學校に開催の山嶽會へ出席の爲七月廿一日出張、校長は全會の登山隊に參加し二日福嶋町を發して御嶽に攀じ引き返して駒ヶ嶽に登山し九日歸校せるが兩山に於て數多の高山植物を採取し特に駒ヶ岳に於ては二行の發見に係る光輝を採取し持ち歸れり

○實習終了 七月廿一日より開始せる實習は八月八日を以て一段落を告げたり此期間中雨天の日は只三日のみ餘は連日の快晴にて作業上には好都合なりしも木曾とは云へ流石は三伏の候炎威赫々燬くが如く生徒は毎日の山林下刈、苗圃除草、測量實習等に疲れ果てつゝ、而も終局迄健闘せるは實に賞賛に値す但し實習中脚氣其他の病氣の爲中途歸郷するもの多少を生じたるは已むを得ざる次第なり

○校友會 九日は實習終了の慰勞をかねて校友會例會を開催し茶菓の間會員の演説あり午前中終了せるが當日は安藤校長が御嶽駒ヶ岳に於て採取せる高山植物を陳列して縦覽に供せり會員の演説左の如し
福嶋町所感 加茂憲太郎君
登山の戒 長谷川房藏君
老人と青年 松澤敏男君
所感(實習に就て) 北村教諭
御嶽駒ヶ岳談話 安藤校長

は王瀧及頂上に各一泊後者は頂上二泊の上何れも十二日無事歸校せり、因に三年生は既に一回何れにも登山せしを以て重ねて登山せず其期間中は實習の殘務を整理する事とせり

○加藤書記就任 曩に福嶋町役場書記たりし加藤安太郎氏は今回本校書記拜命八月三日就任せられたり
○講習會出席 安藤校長及嶋内教諭は八月十五日より向ふ一週間本縣廳内開催の林野講習會に出席の爲出張せられたり
○七宮教諭應召 七宮教諭は八月二日より向ふ三週間の豫備召集に應じ仙臺第四師團へ入營の爲七月廿八日出發せられたり

○内田益治氏は今回甲府市恩賜財團管理課雇を被命
○喜多村明氏は大阪大林區署管内大津小林區署雇を被命
○川岸滋次郎、征矢野餘所夫兩氏は豫て農科大學林學科實科へ志願し受験の處今回首尾克入學を許可せられたり茲に謹で前途有望なる兩氏の成功を祝し併せて健在を祈る
球磨便 小松吉次郎
拜啓各位益御健徳の由奉大賀候小生昨年當地に轉じ申候以來一ヶ年と相成り申候不相變無事にて勉強致し居り候間乍他事御安神被下度候常に岐蘇林友に當地の林業など掲げ度存居候へ共望ましき材料に乏しき地方

市房神社有之候路傍には杉の並木澤山石之候大木にて數百年の樹齡に御座候裾野は緩傾斜にて大部分秣草山にて見るべもの無之候山に入れば暖帯の林相一見して實物を供提居致候

楡類は不及申常緑の潤葉樹は畫尙暗き有様に御座候八合以上は温帯南部の林相を呈しブナ等も多く交り居り候特に此山の柞材は色澤實に美にして大阪市場にて屈指の良材に御座候柞も上部に多く交清致居候羅漢柏に路傍に茂り候は登山者が紀念として一枝二枝挿木する習慣あれば特に多く目立ちて繁茂致候此の山は吾校の植物帶教授のよき模範に候へば年々登山致し居候。

四、ハゼノキ 九州線を旅する人車窓より必ず見るハゼノキ茂りたる景色に御座候筑後川流域には畑に原野に堤防に屋敷に至るところに生育致居候樹高く低く多枝にして茂り綠濃き葉實に美觀此の上なき夏の景色に御座候、一二葉深紅の交れるありて一層風雅なり幹低くれば風害の恐れ少く枝低して綠深ければ家畜など放つによく小供も戯れ居り候九州線の沿道此木なくば如何に無趣味なるかと何人も思ふべく又堤防などに植わられて護岸の作用をなすこと著し秋の紅葉は他樹に優れて紅く夏と秋と其美を全うす樹實は臘を製すべく用途も多き木とす九州線を往復する毎に至る所に茂れる美はしき此の樹を認め候。

雜報

雜誌費領收報告

- 五十錢宛 丸山 久雄殿、宮崎惠喜太殿
- 壹圓宛 原田久保作殿、黒岩 正平殿
- 壹圓五十錢 永井 順殿
- 小松先生へ寄贈金領收報告(第五回)
- 金五拾錢宛 丸山 久雄殿、篠原 爲一殿
- 小林 哲三殿
- 高木先生へ寄贈金領收報告(第三回)
- 金五拾錢宛 丸山 久雄殿、吉田佐十郎殿
- 篠原 爲一殿、小林 哲三殿
- 長谷部兵治殿

新築落成式寄贈金報告(第三回)

- 金壹圓五拾錢 丸山 久雄殿
- 金壹圓 吉田佐十郎殿
- 金貳圓 川岸滋次郎殿
- 金壹圓 原田久保作殿
- 金壹圓 吉池三九郎殿
- 金貳圓 輪湖正由殿
- 金貳圓 篠原忠治殿
- 金壹圓 田中榮一殿
- 金壹圓 千村重喜殿
- 金壹圓 山下常記殿
- 金壹圓 山下藤一殿
- 金貳圓 久保田傳一郎殿
- 金壹圓 嶽野利雄殿
- 金壹圓 木村鐵次郎殿
- 金壹圓五拾錢 武久貞一殿

に候間不惡御許被下度候近日心づき候二二御報申上度候

一、球磨茶 近年其の名を上げ申候球磨茶は山野に自活する茶樹の賜に御座候茶樹は、對那より輸入せしむるが移殖せしものとかが廣かりし様に及聞候へ共球磨の山野には雜草の如く至る處に野生致し居候他の雜木を刈り拂ひ手入をなすときは大抵の山地は茶園と化し申す可く少數の手入のみに御座候田畑の畦畔林野の外に澤山自生致し居り候へば此の芽を製して中々の産額に達し居り候静岡縣より製茶教師製茶器械など輸入して各地製茶致し居り候唯球磨茶の惜むところは施肥なき野生の茶芽なれば風味に乏しく一度湯を注げば味全く出で、以後は飲み難きことにて粗悪の品のみに候外見は相當立派に候へば静岡茶の類似品の如くに御座候

二、球磨の年魚 山間にありて新鮮なる魚を食膳に備へんには年魚に及ぶもの少く候球磨川の年魚は産額に相當多候へ共風味少く候五家莊より流下する川に最も多く人吉以下八代に至り益々多く産し申候近時交通の便開けて何程多くの收穫あるも忽ち販賣しうるを以て先年赴任前に承りし如く日子にするが如きこと決して無之候百々二十二三錢に御座候。

三、市房山 當郡と日向國の境に聳ゆる高峯にして海拔六千余尺九州にても亦高山の一に數へられ候過日登山仕り候中腹に郷社

- 金貳圓 澤田貞次郎殿
- 金貳圓 平田稻男殿
- 金貳圓 北川信美殿
- 金貳圓 米山修殿
- 金貳圓 山村克人殿
- 金貳圓 樋口徳一殿
- 金貳圓 塚本三樹殿
- 金貳圓 奥原吉右衛門殿
- 金貳圓 唐澤清見殿
- 金貳圓 篠原爲一殿
- 金貳圓 渡邊知則殿
- 金貳圓 大洞盛一殿
- 金拾圓 江細猷之允殿
- 金壹圓 宮崎惠喜太殿
- 金壹圓 永井順殿
- 金壹圓 木下清殿
- 金壹圓 鶴殿正雄殿
- 金壹圓 鹽川金次殿
- 金壹圓 倉澤健雄殿
- 金壹圓 白井辰雄殿
- 金壹圓 原七郎殿
- 金壹圓 赤岩藤太郎殿
- 金壹圓 廣瀬静之進殿
- 金壹圓 寺嶋俊一殿
- 金壹圓 黒岩昌平殿
- 金壹圓 古畑七三殿
- 金壹圓 小山田喜重郎殿
- 金壹圓 大森久次殿
- 金壹圓 遠藤治一郎殿
- 金壹圓 青戸爲九郎殿

金參	圓	伊東兵	太殿
金壹圓五拾錢	圓	小松精	内殿
金貳	圓	細江七兵衛殿	
金壹	圓	田中榮一殿	
金參	圓	園原咲也殿	
金壹圓五拾錢	圓	藤卷壽一殿	
金五	圓	林與五郎殿	
金貳	圓	梨原貞次殿	
金壹	圓	中島信敏殿	
金壹圓五拾錢	圓	長谷部真一殿	
金壹圓五拾錢	圓	中島昌利殿	
金參	圓	原田義治殿	
金貳	圓	矢島駒二殿	
小計百拾八圓			
累貳百八拾八圓五拾錢			

第三學年修學旅行日記(三)

五月二十日 火曜日 雨天

兩國停車場を出発した頃は雨しとくと降り出し今日午後の六里の行程を心配する人もあり大部疲れて瀟車に乗るが早いが雷聲の如く稍もすれば車輪の響も壓せらるゝ許であつた

千葉の町は瀟車の中に見て木更津に着し私設の小さい客車に積み込まれ雨は漏る腰掛は不足にくら眠りも眠るわけにも行かずぶうく不平を云つて久留里に着いたのは

附 録

十一時半頃だつた此所から頼朝公を平げるもの傘を用意するもの草鞋の紐を引きしめるもの油紙を買つて將校マント然と着る人など思ひ思ひに仕度をしてすぶるぬかる爪先上りの道を房總半島横断と云ふ意氣込で出發した

天をうらみ雨を呪ひつゝ兎に角清澄山の大學の寄宿に着いたのは夕暮時、早い人は五時頃後れた人は五時半頃誰も頭から爪の先まで土だらけ可憐大禮服もだいなした、丸裸になり洋服を乾かすもの足の豆を顔に皺をよせながら焼くもの五月半ではあるが大部爐邊は賑かなものだ

七時頃夕食をすまして皆寝に就くが早いか白川夜舟

五月二十一日 水曜日 曇天

清澄山演習林視察鴨川泊

昨日の疲れでねむい目をこすりこすり起きて朝飯を済まし事務所の前へ集まつて此所で此の清澄山の演習林の沿革及び事業の大体の説明を聞いた記憶のまゝ一寸記して見よう。此の演習林は元は東京大林區署大瀧小林區署の管轄で演習林として大學の方へ引取つたのは明治二十七年で面積は清澄山の地籍が三百三十六町歩であつて其の昔は武州川越藩の松平大和守が監督して居つて所有は此の清澄寺のもので有つて維新前頃迄は常緑樹のみは禁伐して他は大部伐り荒されたもので寺の附近に有る大きな木は皆信者の寄附によるものであるとか事だ當演習

るものにして平均一日一人の工夫にて百五十本位枝打をなすと云ふ而して其の時期はあまりやかましく云はずして工夫の多い時期に於てなす即ち其の實際學術上の時期は工夫の少き時にして工夫の上より甚だしく損失を蒙る故なり、

下刈に付きては目下は工夫を備ひ入ると請負にすると二方法を取りつゝあり一反歩平均一回は五十錢二回は三十錢位なり

地帯費は一反歩通常五十錢内外間伐は第一回の間伐の如きは一本の價格二三錢にして運賃を引き去れば損失する位のものなり

根曲は其の理由は風又は性質等に依ると雖も多きは次の理由に基因す

- 1、植付く時の穴の掘り方
- 2、植付る時の土のかけ方
- 3、下刈の時根元を踏むに依る事
- 4、下草を刈りて根の上に置くに依る事

就中34は最も注意を要する事なり云々以上を聞きつゝ推茸栽培地に行く川の兩側に數多の樺木を積みたる中に推茸の顔が覗いて居るのを見受けた

此のすぐ上に鹿を放牧したる所あり、向に字向峰と云ふ所には樟を植栽せる個所あり其の面積は五町歩許りなれども此の地以前は樟と茅の雜生地たりしを以て之れが伐期を一時になし其跡に樟樹を植栽せんとせしが、時に全体を刈拂ふは甚だ土地の利用上不經濟なるを以て種々に考案の結果本多博士の考案によりて此の雜木を帶狀に伐採し

林は學術研究の爲めに供する目的とするが故に樹幹を折解して見るとか造林期節とか枝打期節とか林道設定法、伐木方法推茸栽培とか各方面より研究する爲めの山林に供してある事を話された其の外當演習林の下木の炭焼の話等も有つたが略して實地に付きて話された事のみ記することとする、事務所で一通の話を聞いて少し登ると清澄寺の前へ出此の寺は日蓮宗の開祖日蓮上人の未だ寺小僧たりし時修業した寺にして此の界限に於ける有名な寺だ寺内に左甚五郎の作と云ふ木牛が鐵の鎖で繋がれてある寺の前に胸高周圍六間餘高さ二十六間餘の古杉がある寺を辭し少しく降りて千間山の前に至る此の山の面積四十歩許の原生の林を有し其の年齢判然せずと雖も古木森々とし畫尙暗い斯る原生林の今尙依然として存するは古此の地方は佛教が旺盛なりし爲めある迷信に依り頼りに樹木の伐採をせなかつた爲である、元來農科大學が此の地に演習林を定めたるは明治二十七年頃本多博士學生を引率して當地に來り計らずも此の原生林を發見したるに因する此の原生林は「モミ」「ツガ」等の外「カシ」「シト」「アセビ」「シキミ」「ヒサカキ」「ヤマモ」「タブ」「イヌツグ」「シリフカガシ」「ヤブニツク」「マサキ」「サンゴジュ」等有り下木としては「ミヤマシキミ」「アオキ」等あり其の原生林を見て山の裏の方に至ればスキの植栽地がある此にて樹木の生長と水分との

關係を聞いた即ち如何に肥沃の地と云へども水の無き時は生長の量の少き事は谷間はよく生長し道の上は下より生長鈍く又同じ傾斜の山にしても山の下の方に行くに従ひ生長が良好であるとの事だ、此所より少し行き向ふに見ゆる山火事の跡地を見て山火事に付きて其の針葉樹の單純となすべからざるを説き必ず其の間に防火線に潤葉樹を植付くべきを聞かされた又此所にて公有林の整理に付て次の三項に渡り話された

- 1、大資本主に貸付くる事
- 2、部分林を作る事
- 3、町村自身經營すること

之れより引かへして事務所に至り少憩して晝飯を喫し又案内せられて清澄山を下る清澄山字切通し南澤と云ふ處にて内外國種の見本林を見る中内國樹種は朝鮮松、金松、センダン、ウツギ、白雲木、コノテカシハ、シロダモ、カクレミノ、イヌビワ、サンゴジュ、サカキ、ヒザカキ、ヤブニツク、サマキ等にして外國樹種はハンテン木、落羽松、エンビツビヤクシン、亞米利加ヤマナラシ、ニライヒバ、佛國海岸松等にして之等の樹種に付きて一々懇篤なる説明を聞いた、此の外所々にて枝打、下刈、植付地地帯、間伐、根曲り等に付きて左の如く説明せられた

枝打は一本五厘乃至八厘位の費用と造林の三倍以上の手間を要し器具は普通鋸にして一寸位のもの鋸齒は二個乃至三個を有す

第二學年修學旅行日記(三)

五月二十一日 水曜 晴

第八日 (自和歌の浦至大阪)

午前六時半波の音に樂しき故郷の夢を破られ眠き目を擦りつゝ起つ昨日の疲いや増しに加はり足は棒の如く立つことだに不自由なり直に朝食を終へ望海樓を出づ

朝靄茫洋たる大海を望め浩蕩たる波濤磯を

打つ帆を半ば張りて出て行く船をあやつりて横ぎる舟漸く其の姿を隠しぬ太陽既に磯松にかゝり波上金を鏤めぬ。和歌の浦を辭して和歌山に歸り七時二十分南海鐵道の人となる廣漠たる麥田右方に開き澎湃たる海は左方に波打つ生りつきたる胡瓜敷丁歩に渉る深緑の葱黄金と相交はる其の色彩初夏を遺憾なく表せり。海邊に沿ふて長く連る松林防風防砂防潮魚付の効ありとか其の白砂と交り風光の明媚なる淡路嶋を隠せしめて眺望の佳絶なる名狀するに言を知らず岸和田過ぎ堺來り車は早くも惠比須に着きぬ此處は既に大阪の地商店櫛比し街路四通し車馬絡繹として行人雜踏を極む驛より歩を東に取り更に轉つて天王寺公園内に入る數萬坪のスペースを享々たる樹木宏壯なる博覽會建物とを以て占む。拓殖博覽會は明治聖代を紀念し其の偉業によりて贏ち得たる新版圖の特産物並に其の相異なれる各人種を一場に會して以て相互の知見を増進せむとする趣旨のもとに開催されたるものなりと云ふ各自觀覽券を求めて會場内に入る入口に各府縣出品の賣店あり此れに隣りて機械館あり斯館は本博覽會開催の機を利用し以て嶄新なる各種製作品を出陳せむとする大阪市工業家の希望によりて特に建設せられたるものなりといふ館内陳列の最も多きは精米機にして各種の水揚唧筒之に次ぐ何れも其の形状及組織を異にし各其の特長を有すべけれど門外漢の

吾々には之を判断すべくも非ず其他繩綯機鋸屑利用器等種々あり就中最も面白く感じたりしは岡鐵工場の出品に係はる自動制轉風車なりき風車の効用は上水道の施設なき都市若くは田舎の別荘用として屈強なるものにして風力により井水を上部のタンクに揚げ更に適宜臺所又は浴室に水を導くの裝置あるものなり機械館に並びて活動寫眞及北海道アイヌ熊祭り等の餘興あり更に歩を進めて本館たる勸業館に入る正門を潜りて左顧すれば臺灣部なり其の前に阿里山の四木と題して次の如き大材ありたり。一亞杉 長七尺徑四尺四寸價參百五拾圓。二紅檜 長七尺徑四尺三寸價參百五十圓。三檜 長七尺徑四尺六寸價參百圓。四姫子松 長七尺徑四尺價九拾五圓。入口の中央には阿里山の老杉を摸したる大木を植ゑ其の根元には等身大の生蕃人形二つを佇立せしめ之と相對せる左側の入口には生蕃家屋の屋根をあしらひ其の門口には同じく實大の生蕃人形を配せり其顔色の黄褐色を帯びたる形相眞に迫り臺灣を想像せしむ館内に於て最も目立ちたるは東西各三列の中間にありし京都法然院の模造白木門並に樺太部に移らんとする手前にありし二十數疊敷の純日本式床付の書院にして共に臺灣の森林を代表せる阿里山の材を以て製作せるものなり後者の如き價格四千二百五拾圓と註せられ觀者をして其見事なるに一驚せしむるも理にして一坪の建築費實に貳

百圓を超ゆとの事なり門の南に熱帯林の標本あり榕樹芭蕉印度護謨樟相思樹大頭茶蒲桃サイザル大谷陟檳榔刺竹麻竹を主とし林投(所謂台灣バナナ帽の四原)青竹紅竹蛇木等を添へ尙周圍一丈五六尺に餘れる大杉の中央に四角窓を穿ち其の中にて電氣動力を以て廻轉寫眞の裝置をなし阿里山森林の實景を表はせるものありき。其他各種の林産、農産、水産、食料、陶磁、工藝、裝飾、鑛産、鳥獸剝製、等の諸品數多陳列されたりき臺灣部の一隅に又白蟻の參考品陳列所あり同室には白蟻の卵より漸次成虫に至る迄の變態及木材に害を及ぼす状態該虫の豫防建築法の參考品等ありき。熱帯に遊びし吾等は一步にして夏猶寒き樺太領地に入る中央に樺太特有の樹木を以て鬱蒼たる森林の状態を現はし其の間に同島産の馴鹿を點し麝香鹿山猫黒貂を點し鷲ふくら、樺太雷鳥を配せり樹木の主なるものは椴蝦夷松落葉松白樺等なり其の右に同嶋特有の犬橋模型あり樺太の面目躍如たり。多くの陣列品の中殊に觀者の目を惹きしは北緯五十度の地點に設けられたる日露兩國の國境標石模型なりき此處より北海道部に入らむとする所に二個の林産廻轉臺あり同島特産の木材を束ねて其の種類を示せるものにして椴、蝦夷松等なりき其の左に乾餾工場模型あり本模型は豊原に於ける樺太廳乾餾工場を摸したる物にして木材乾餾より木精醋酸サクサン石灰ピッチ、タール、等

の物品精製に至るまでの狀況を示せるものなり因に同工場は我國に於ける最初の乾餾工場なりと聞き及べり。更に歩を進めて北海道部に入る北海道の地勢模型、河馬熊の剝製、北海道塔、輸出入實物統計、生産十年比較統計、鮭鱈人工孵化模型、熊祭摸型等あり天井には壁畫あり其他種々の陳列品ありたり。北海道部を出れば朝鮮部なり鴨綠紅の鐵橋摸型、虎豹の剝製、朝鮮人參の起原を説明する人形、京城、舊王城景福宮の後園にありて京城の於ける美術建築物の摸範と稱せらるる慶會樓の模型其他種々あり朝鮮銀行の出品に係る一個貳百四拾四匁の砂金塊には一驚せり林産物の出品として唯鴨綠江上流地方より伐り出せる木材ありしのみならず朝鮮の森林が如何に荒廢せるかを想像するに足る右の外東洋拓殖會社の出品に係る朝鮮全土の大模型(皇孫殿下御教育資料として献納せるものなりといふ)各未開地開墾摸型泰州水利工事摸型等あり要するに朝鮮部の出品物殊に其の産物にありては比較的僅少の感ありき朝鮮部より樓上に上りて一覽す樓上は參考部の出品陳列場にして各府縣の重要製産物を陳列せり該品は何れも階下のものに比し數等進歩の跡を認むるは勿論なり。

勸業館を出て、滿洲參考館に入る旅順東鶏冠山堡壘築城の原型及陥落當時の模型南滿及安奉鐵道の摸型大連港摸型等多くの模型あり殊に旅順鷄冠山砲臺摸型の如きは往年忠烈乃木將軍の心血を此所に凝がれたるを追憶し低徊去るに忍びざらしむ特産品として陳列せるものには柞蠶及其の製織品高梁大豆及其の製品食鹽及鹽田作業摸型、採鹽器具撫順石炭炭坑設備等あり林産物としては鴨綠紅木材等ありき。斯館を出て、美術館に入る館の階下は歴史的出品物陳列場にして階上は勸業館の樓上と共に參考部の陳列場たり。階下臺灣部には蠶地生産品及教育成績品等あり樺太部には學校兒童の製作品土人風俗圖植物醋葉統計圖表等あり北海道部には歴史的參考品多く中に近藤重藏の道路開墾記千嶋地圖伊能忠敬の沿岸實測圖等あり其他石器時代の遺物たる各種の石器(石槍石鏃石棒等)も多くアイヌに關するものには衣服、履物、家具等ありき朝鮮部には李王家の古器物書書類多かりき美術館前にアイヌの小屋あり種々の工藝製作に従事しつゝありたり。美術館の門を出れば身は既に會場外の人となりぬ附近にて晝飯を終へ午後一寺大阪大林區署に向ふ大林區署にて同署保管の明治三十六年第五回内國勸業博覽會に出品せる各種の標本及摸形の一部を觀る秋田地方の運材裝置各林木種子の標本各材の標本國有林の摸型等ありしも多くは破損し若くは破損せざるまでも署員すら何たるかを解せざるが如きものにして吾等を益する所あま

り大ならざりき大林區署より歩を大阪城に取る城は蓋世の英雄豐太閤の築きしものなれども惜むらくは其後兵火にかゝりてあらゆる建物烏有に歸し纔に牙城の存するのみゆる流石に名城たるを失はず周圍一里餘と雖も濠深く方數間の巨石を城壁の内に見るべく人をして壯大の感あらしむ。遠く市街を見渡せば煙突の林立し煤煙の高く空に漲るそのたゞに耕地彼方に連りて其の際崖を知らず大小廣狹幾筋の河川或は東に或は西に流るゝを望む。第四師團司令部上水貯水池等を見て城を出れば既に四時なり此所に一同解散し各自隨意的行動を取つゝあり道頓堀日本橋の吉野館に着す窓より煤煙入り來りて鼻を衝ぐ流石は東洋のマンチエヌターなる哉。

五月十二日 木曜 晴天。第九日 自大阪至京都。午前六時三十分吉野館を發して木材市場に到り木材賣却の狀を見る妙なる手振奇なる呼聲一として吾等に解せらるゝものなし材種は主に杉扁柏松とにして木會産のものもありとか此處より電車によりて築港に向ふ築港は二十餘萬の巨資を放つて方一間のブロックを以て防破堤を築き突出せること約一里に及ぶといふ棧橋は長貳百五拾間幅十五間あり港の深さ最滿潮にして三十四尺五寸最干潮にして二十八尺ありといふ港内には數艘の汽船碇泊し港外遙かに十數の煙の立昇るを見る。

築港を後に再び電車によりて造幣局に向ふ
造幣局は淀川の右岸にありて最も形勝の地
たり發電所及鑄造所(試金部、彫刻部、試験所
鑄造部、検査部)を見る各課分擔して其の職
に當り秩序整然一糸亂れず真に帝國の貨幣
鑄造所たり。
こゝより各自梅田停車場に向ふ集る人散る
人搬出搬入の貨物その數を知らず數十百の
腕車は相並びて客を待つあり幾多の茶店軒
をつらねて人を呼ぶ其の雜沓名狀すべから
ず附近は所謂京畿の平野耕地遠く雲際に至
る其間にボブラ拂及竹の點々として塊狀林
をなすあり。

東寺の塔は吾らを迎へ顔に聳へ鴨川の水は
吾らを待つもの、如く京都京都の呼聲を慈
母の懐に入るの心地す時方に午後一時四十
分なり奈良行の列車に乗かへて進む路傍に
菰もて覆はれた茶園あり玉露などの茶摘な
らむか宇治は名所お茶所の光景を如何なく
發揮せり、桃山停車場に下りて伏見桃山御
陵を拜す翁蒼たる松柏の林中に在します明
治大帝の宏大無邊なる神靈に向ひ砂礫に跪
く、御陵は目下御造營中の事とて遙拜し奉
る、御陵參拜後京都府立農事試験場桃山分
場を參觀す場員の案内により圃内を視察す
中に本校校長先生の寄贈に係る竹園ありオ
ロシム篠外五十餘種あり大小錯雜せる形状
の竹林のさま愛すべし 又視るべし
果樹には梨、苹果、桃、李、葡萄等あり梨
は目下紙袋を以て覆ひつゝありりの袋は硫

酸紙(三年間の使用に耐ふ)の底抜けのもの
にして其の春きつくる所に少量の綿を以て
果柄の傷くを避け然る後細線もて巻きつ
るなり其の技術の巧妙にして迅速なる驚く
の外なし苹果にはカゴ、ガラスのつきたるも
のもありき葡萄には一總一圓と稱せらるる
種類もありき、
茄子の如きは既に數寸に伸び瓜の蔓には拇
指大の胡瓜を見る更に異様に感下たるは山
椒の葉にして三月上旬にてはもうの一葉一厘
に價すといふ。
其他各種の蔬菜あり花奔あり殊に美麗なる
草花の間かりしなご昨日來都門の紅塵に腦
まされたる吾らの五管を慰籍するや大なり
、更に標本室に案内せらるる梨、水蜜桃、
葡萄、柿、慈姑、莢豆、茄子、菜菔、筍等
の標本あり四時半頃參觀を終へて解散し各
自思ふ儘の行動をとりつゝ京都に歸る三條
あたりに行めば東山三十六峰笑ふが如く鴨
川の水奏するが如し
伏見屋支店樓上に眠れる數十の健兒の枕に
通ふ夢や何處故郷にあらず母校にあらず又
昨の浪華の巷にあらず吾人の將に踏破せむ
とする山紫水明の此の地なり。
五月貳拾參日 金曜 晴
第九日 京都滞在

白數百株ありて都下に冠たりといふ
行くこと數町にして金閣寺に到る一部の者
は寺内を拜觀せり
一行は此所より市を後にして中川村へと歩
を運ぶ右手に三條院天皇北山陵あり御垣は
あかめもちと稱する潤葉樹にして真紅の新
芽を出して頗る美麗なりき
暫くして一條院天皇御火葬所あり此處より
は道漸く狭く爪先上りとなりて歩行稍困難
を覺ぬ、右手には數町に渉る大竹林あり
左手には緑鮮かなる松林あり京都名産に松
茸及竹細工ありとは地理書を繙かすして知
り得べきなり
婦人は此の地特有の風俗即ち頭上に重荷を
載せて悠々として去る聞けば十五六貫は優
に載せ得といふ、道は川に沿ひて谷に入る
所々に臺杉の點在を見る行くこと一里にし
て峠にかゝる烈日威を逞しうし汗瀧の如し
喉乾き足疲れ全身殆ど綿の如く飲まむと欲
すれど水有らず憩はむとするも茶店なし一
歩に一喘漸くにして頂上に達す一休して下
り道につく路傍に清き流れあり掬して喝を
醫し以て元氣を恢復す、附近には鬱蒼たる
森林あり谷間に近く臺杉林あり主に三角形
に排列され密ならず一株より大抵五六本生
じ十年乃至二十年を経過せるもの多かりき
山のや、高き所よりは杉の普通林松林扁柏
林雜木林あり杉扁柏は造林せるものゝ如し
菩提の瀧を経て中川村に着す鎮守の森に入
て一休し同村々長の臺杉作業に關する講話

を聴く其の概要次の如し

一、杉の種類 臺杉作業に用ふる杉には
二種あり白杉及芝原といふ白杉には
本白峯山はうづき白等あり
白杉は百年後に至れば成長漸く衰ふ
るも芝原は衰ふることなし
二、蕃殖法 苗木を仕立つるに實生法と
挿木法とあり實生法によるときは材
質不良にして磨丸太としてあまり好
ましからずといふ然れども成長は挿
木によりたるものより良好なり故に
實生苗は主として普通林に仕立つと
いふ
挿木の方法は先づ枝を約一尺に截り
其の下部の小葉をしき取り約五寸位
を赤土の圃子中に挿し込み然る後之
を圃上に挿す
而して其の適期は五月上旬より中旬
にありといふ経験上より一般に白杉
はつき易きも芝原はつき難しといふ
三、手入れ 活着後は普通の苗圃と同じく
除草施肥等を行ふ肥料としては下肥
を稀釋せるものを施す
床替は之を行はざるを普通とす
四、植栽 挿木苗にありては參年目に林
地に植栽す但し生長不良なるものは
残して床替し次年に至りて山出しと
なす
白杉は一般に地味良好なる所を撰び
て植うるを可とす

五、枝打 林地に植栽したる後七八年を
経て幹の下部約二尺程の枝を残して
枝打をなし以後は隔年にして是を行ふ丸
太材は約三四年目毎に枝打を施し以
て材を肥大せしむといふ
六、伐採 早きものは約二十年(垂木用)
普通四五拾年に到りて伐採し磨丸太
となす
臺よりは最初三四本の芽を生せしめ
大なるものより次第に伐採す
三回目四回目の萌芽によりたるもの
磨丸太として最も優良なりと

終つて同村長の案内により苗圃を視察す苗
圃はさまで廣からざれ共實生苗挿木苗共に
あり其の畦間は藁を敷きて雜草の生するを
防止せり同氏の談によれば白杉の挿木苗は
一本參錢位にして芝原は四錢位なりといふ
視察終つて同氏に厚く禮を述べ自由解散を
なす、梶尾横尾高雄即三尾の勝を探りて嗟
峨に出づ此の附近には廣大なる竹林各所に
散在せり竹の上部を截断せられたるは筍採
取の目的にて栽植せられたる江南竹と知ら
れたり江南竹は間隔甚だ疎にして且つ其の
土地肥沃なる様見受られたり、他は何竹な
るや此れを知らざるも其の間隔甚だ密にし
て竹間には多くの落葉堆積せられたるを見
る嗟峨より瀛車或は電車によりて三々五々
京都に歸る時は方に四時なりき、夜は各員
それゝ市内を視察す舊都の夜は唯何とな
く物優し。

五月二十四日 土曜 晴
第十一日 自京都至名古屋

午前中自由行動を許さる蒲團着て寝たる姿
の東山に白河法皇の御心に任せぬ鴨川に或
は御所に二條城に動物園に博物館に本願寺
に知恩院に其他各地に散在せる名所舊蹟神
社佛閣に半白の學生は見受けられぬ
思へ血あり涙ある岐蘇の健兒が由緒深き此
地に遊ぶ其の感慨の如何なりしかを
御所を拜しては國勢變遷の如何を喚び起し
轉た感激の涙に咽び本能寺に遊びては英雄
の末路を忍び方廣寺の大鐘を仰ぎては國家
安康の四字を睨み銀閣の門を潜りては義政
榮華の跡を忍ぶ一事一物に接する毎に或は
泣き或は慨せし其の様を
時辰儀進み進みて十二時を報すれば七條停
車場既に五十の健兒あり同五十八分發上り
列車に搭りて名古屋に向ふ車窓より洩れ來
る聲は果して如何なりし尋常一様の聲に
あらざりしを知れ
稻荷驛附近には竹林の簇々たるものあり窓
外に茶摘む乙女を見受けられぬ石山附近に
來れば我國第一の琵琶湖左方に波打つを見
る煙は早くも勢田川に横はり霞に眠れる遠
近の山々或は濃く或は淡くの鳩浦風波に眠
りて栗津嵐淋しげに吹く、右手に見ゆる山
々は劇しき禿頭病に侵され或は泣き或は喚
く中には名醫の診斷を受けたる者ならんか
砂防工事の施されたるあり
草津過ぎ彦根來り霞に眠る伊吹の嶺を左に

仰ぎつつ關ヶ原に着く此處を慶長の昔東西二十萬の軍兵が鎬を削りし所吹く風歌々たり三層の天守閣巍然として聳ゆるは大垣の驛鶉飼の名ある長良川を渡れば岐阜の町緑の衣着けたる金華山左方に高く雲を突き廣漠たる耕地遠く南の天に連なる長き木曾の鐵橋を渡り廣き沃野を横斷し幽禽飛んで夕陽の天に没し名も知らぬ寺々の鐘杵として夕を告ぐる頃瀛車は猛然として構内に入り其の運轉を停めぬ『名古屋、名古屋』の呼び聲に下車すれば電燈燦として吾等を迎ふるもの如し足は自ら運ばれて佐東館の門に入りぬ

夜は北村先生より旅行の無事終了したることに満足の意を表せられ續いて慰勞會を催せり十一日間に起りし得意談失策談等各自獨特の口調にて語り出され時の移るを知らざりき終つて各自市中を散歩せり

五月二十五日 日曜 晴

第十二日 名古屋至母校

午前八時佐東館の門を出で堀河に沿ふて南下す數多の木材積まれて山の如く製材所の鋸聲譁々たり『エイヤエイヤ』の掛聲起るは木材を川より引き出す所なり

行くこと約一里帝室林野管理局名古屋支廳熱田出張所白鳥貯木場に案内を請ふ一吏員生等の爲めに熱心説明の勞を取られたり其の概要及視察せし所を記すれば左の如し
貯木場の面積は約十八町歩あり然れども目下狹隘を感じつゝあるを以て本年度よ

り向ふ三ヶ年繼續事業として北方に擴張し且木材運搬を一層便ならしめんが爲め鐵道を新設せむ計劃なりと云ふ
現今運搬の唯一の機關ともいふべきは場の南北にある太夫、御船の二堀にし其の堀川に通ずる所に大小二等の水門を設け其の開閉によりて水を出し入れしめ以て木材を運搬すといふ

此の堀を四方に分岐せしめて其の中に木材を沈め貯ふ此の太夫堀とはも幅島正則が名古屋築城の際石材運搬の爲めに堀りたるものにして御船堀は尾張侯が船を置きたる所なりといふ
抑々此の地は元尾張侯の有せしものなりしが維新後官有となり山林局の貯木場たり次で帝室の有に歸し以て現今に至れるものなりといふ

本貯木場に貯ふ木材は毎年約十萬乃至十二三万尺にして現に存するものは桑名分場のものを合して無慮二十二萬尺に上るといふ樹種は概ね扁柏、花柏、松、樅、樺等にして小川、王瀧、柿其、阿寺、賤母、付知等の各伐木等より伐り出せるものなりといふ

貯蓄せる木材は之を樹種別となし更に材種別となし公入札の方法によりて賣却す競賣は一年を通じて七八回行ふものにして一回約七八十人の商人集合す此の商人は大部分は名古屋商人にして又大阪等より來るといふ

一同競賣室に於て茶の饗應を受け出張所を辭して熱田神宮に參拜す社殿は明治二十六年の改築にして規模の壯嚴なる參拜者をして思はず襟を正さしむ境内樹木鬱蒼として清淨高潔華表を湛るより神威の赫々たるを覺ゆ

生徒の希望により名古屋十二時五十分發の列車により歸途につくべきを午後二時發に變更せられたるを以て各自隨意市中を見物せり二時間の遊覽を恣にし午後二時再び車中の人となりて歸途につく

西に聳わし金城は西南に飛んで姿を消しぬ多治見過ぎ中津川來り煙は早くも木曾谷を罩めぬ日既に西山に没し烟に茶摘む農夫の影漸く黒し、與川の半月淡く車窓に照り木曾の川波滔々として車下に咽ぶ

須原上松の聲聞きては懷さ坐湧きてまだ禁する能はずやがて起る一聲の汽笛は木曾福嶋と告げぬ時は方に八時二十七分なり、愛情溢るゝ諸先生の御出迎を受け心に深く感謝しつゝ懐しき一年生諸君に圍まれ土産話に花を咲かせつゝゆかしき母校の門を潜ればこゝに希望と平安に充ち満たされ二句に跨れる修學旅行は終りを告げ畢りぬ、家々の灯も寮の灯も同ト心に輝きてやをら疲れし足を移さしめぬ。(大尾)

